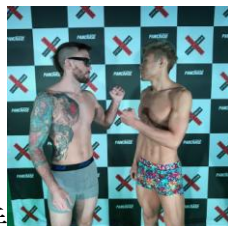


～前日計量進行説明～

○メインカード出場選手

- ・メインイベント赤コーナー選手→青コーナー選手→セミファイナル赤コーナー選手→青コーナー選手・・・と試合順最後の赤コーナー選手から順番に計量します。
- ・計量後パネルの前で①フェイスオフ(向かい合ってファイティングポーズをとった写真) ②両選手正面を向いてファイティングポーズを取った写真 の順番で撮影を行います。



RED 赤コーナー選手 X 青コーナー選手 BLUE

- ・その後ドクターの前日計量問診を受けて下さい。
- ・全選手計量終了後ルール説明、試合当日の進行説明を行いますので部屋内で待機して下さい。
- ・第6試合から第10試合(メインイベント)に出場の選手は3Fにて煽りVの撮影があります。
- ・全選手試合前のコメント録りを行います。
- ・再計量は計量開始時刻から2時間以内がリミットです。

上記全て終わってからご退場下さい。

○プレリミナリーファイト出場選手

- ・第1試合赤コーナー選手→青コーナー選手→第2試合赤コーナー選手→青コーナー選手・・・と試合順で赤コーナー選手から順番に計量します。
- ・計量後ドクターの前日計量問診を受けて下さい。
- ・全選手計量終了後ルールの説明、試合当日の進行説明を行いますので部屋内で待機して下さい。
- ・再計量は計量開始時刻から2時間以内がリミットです。

上記全て終わってからご退場下さい。

～計量に関するルール～

第1条 体重階級制

(1) 試合は次の11階級において行われる。

- ①スーパーヘビー級120.2kg以上 ②ヘビー級120.2kg以下93.0kg以上
- ③ライトヘビー級 93.0kg以下83.9kg以上 ④ミドル級83.9kg以下77.1kg以上
- ⑤ウェルター級77.1kg以下70.3kg以上 ⑥ライト級70.3kg以下65.8kg以上
- ⑦フェザー級 65.8kg以下61.2kg以上 ⑧バンタム級61.2kg以下56.7kg以上
- ⑨フライ級56.7 kg以下52.2kg以上 ⑩ストロー級52.2kg以下47.6kg以上 ⑪アトム級47.6kg以下

(3) タイトルマッチ以外の試合では、0.45kg (1ポンド相当) の許容重量が認められる。タイトルマッチでは、競技者は(1)に掲げる所定の体重を超えてはならない。

第2条 計量

(1) 競技者は、審判部の立ち会いのもとコミッションが指定する日時に行われる公式計量に合格しなければならない。

(2) 公式計量に合格できなかった場合の再計量は、公式計量の開始時刻から2時間以内とする。再計量にも合格できず、なおかつお互いの体重が異なる階級にある場合は2.2kg(5ポンド相当)を超える差があつてはならない。両選手の体重差が2.2kg (5ポンド相当) を超える場合には、計量に合格できなかった競技者を失格とし、試合は行われぬ。再計量時の体重超過が2.2kg以下であれば、相手の競技者が承認した場合に限り、キャッチウエイトにより試合は行われる。

(3) 契約体重で行われる試合においては許容重量、キャッチウエイトは一切許容されない。

(4) 男子競技者は上半身裸、下半身は必要最低限の衣類で、女子競技者は上下とも軽装で計量を受けなければならない。

(5) 競技者が公式計量に合格せず、再計量にも合格できなかった場合、契約上のペナルティが課せられる。また、計量を故意に無視する、計量に合格するまで再計量に臨まない、あるいは、再計量において体重が増加するなど、試合出場に向けて最善を尽くさない場合にはペナルティが加重される。計量不合格によるペナルティ不履行にかかる裁判の管轄は、東京地方裁判所または主催プロモーターの住所・所在地の裁判所とする。

(6) タイトルマッチにおける計量の不合格については、第38条(6)の定めによる。

第38条 タイトルマッチ

(6) 計量に合格できなかった競技者は王座に就けない。試合は第2条(2)の条件のもと以下の条件で行われる。

- ①タイトルマッチで、王者が正規の体重を維持できなかった場合、王座は空位となる。
- ②王者が正規の体重以外で正規の体重の挑戦者に負けた場合（不戦敗を除く）、王座は移動する。
- ③王者が正規の体重以外で正規の体重の挑戦者に勝つか引き分けた場合、王座は空位となる。
- ④王者が正規の体重で、挑戦者が正規の体重を維持できなかった場合、王者は当該試合をタイトルマッチとして行うか否かを選択することができる。
 - i) 王者が当該試合をタイトルマッチとして行うことを選択し、当該試合に勝つか引き分けた場合、タイトルを防衛したものとみなす。
 - ii) 王者が当該試合をタイトルマッチとして行うことを選択し、当該試合に負けた場合、タイトルは空位となる。

～試合当日進行説明～

○会場入り後

- ①試合用グローブの受け取り、競技用具のチェック、当日参考計量を受けに審判員控室までお越してください。
メインカード出場選手にはバケツの貸出、テーピング/バンテージの支給があります。
プレリミナリーファイト出場選手はご自分でご用意下さい。
バンテージは白色の柔らかいガーゼ製の物以外使用できません。
グローブ受け渡しの際に当日の参考計量、競技用具（コスチューム、グローブ、マウスピース、ファールカップ、サポーター）、爪と身体のチェックを行います。選手本人が競技用具持参の上お越してください。
- ②14：00～15：20の間に当日の試合前ドクター問診を受けて下さい。
問診は会場内試合場CAGE横のドクター席にて行っています。
問診の際には計量時に受け取った問診票に必要事項ご記入の上必ず持参して下さい。
- ③CAGEチェックは青コーナー選手14：35～14：55、赤コーナー選手14：55～15：15です。
上記以外の時間にCAGE内でアップ等は行なえませんのでご注意下さい。

※タイトルマッチ出場選手

ドラッグテスト用の採尿を行います。来場後ご自分のタイミングで採尿の準備が整いましたら審判員に声をかけて下さい。審判員立ち会いのもと行います、試合前でも構いません。

○試合前

- ①所定の場所で審判員がハンドラップのチェック、グローブの封印を行います。これらの施しは全て競技役員監視の下で行います。封印に使用するテーピングを持参して下さい。封印後必ず審判員からサインを受けて下さい。
開場14：00
プレリミナリーファイト出場選手は15：30までに終了して下さい。
第1試合～第3試合に出場の選手は17：00までに終了して下さい。
第4試合～第6試合に出場の選手は17：45までに終了して下さい。
第7試合～第8試合に出場の選手は18：15までに終了して下さい。
第9試合～第10試合(メイン)に出場の選手は18：45までに終了して下さい。
※試合進行によっては上記より早い時間にお声がけする場合があります。

○試合中

- ①入場曲が流れたら速やかに入場して下さい。
- ②審判員の前に到着する前に着衣や靴等は全て脱ぎマウスピースを装着して下さい。
- ③審判員のワセリン塗布が始まりましたらセコンドの方は選手に触れることができません。ハグや激励はその前に済ませて下さい。また審判員に選手を預けたら速やかにセコンド席へ向かって下さい。
- ④バナー等は紐をつけてぶら下げるもしくは金網の裏からご提示下さい。金網に登る行為は禁止です。
- ⑤試合インターバル中にCAGE内に入れるセコンドは1名です。
- ⑥試合インターバル中にカットマンが自動的にワセリンを塗布するのは裂傷が認められた場合のみです。ワ

セリンの塗布を希望する場合は都度カットマンに申し出て下さい。

⑦水をまくなどの試合場を濡らす行為は一切禁止です。

⑧セコンドが試合放棄を示す場合は各コーナーに用意されたコーナー色のバスタオルをCAGE内に投げ入れて下さい。

⑨個人でのマイクアピールはできません。対象となった試合のみインタビュアーがCAGE内に入りインタビュー形式でのマイクを行います。

○試合終了後

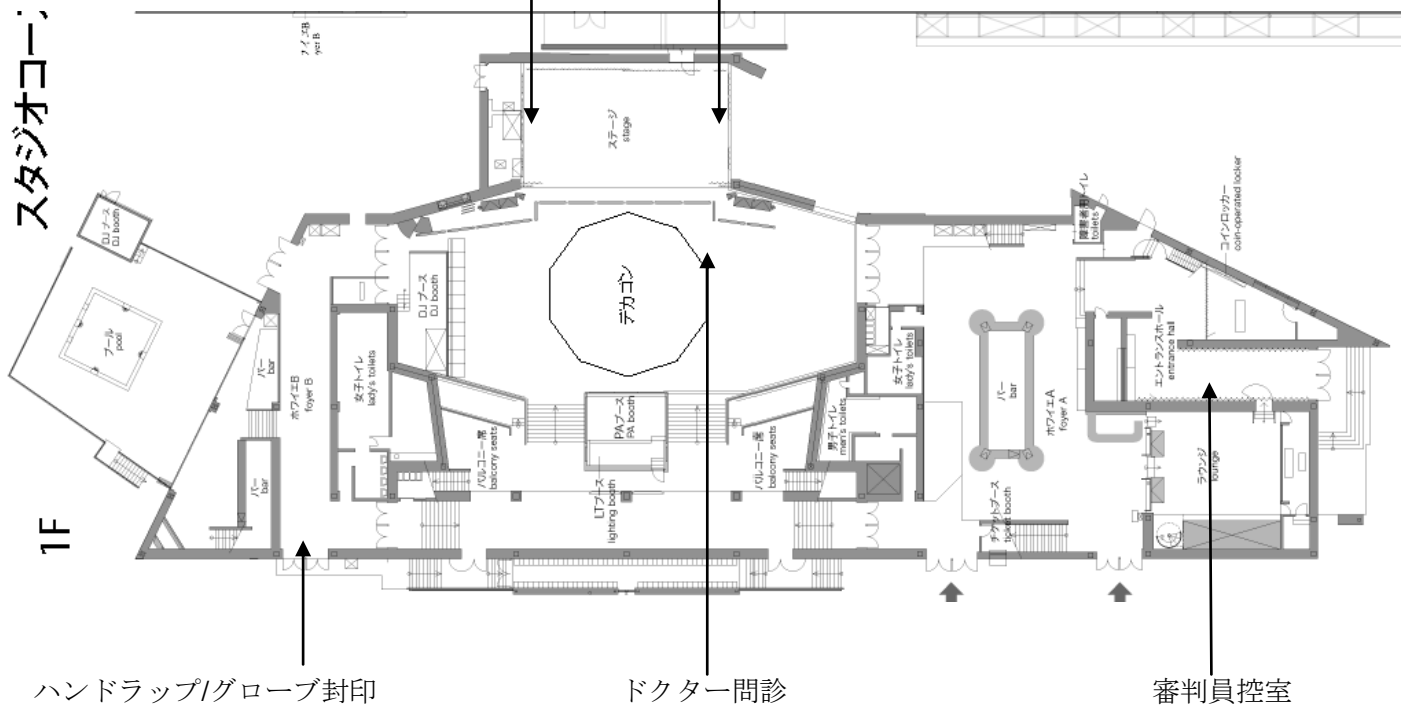
①ハンドラップ・グローブ封印場所にグローブ(メインカード出場選手はバケツも)を返却にお越し下さい。

グローブについてのテーピングは剥がして下さい。

バケツは洗浄後水気を拭いて返却して下さい。

その他

- ・ 出場選手は必ず保険証を持参して下さい。
- ・ 来場時にパスバンドを受け取り装着した状態で会場内を移動して下さい。
- ・ 審判員が塗布するワセリン以外の塗布物は一切禁止です。整髪料も含まれます。
- ・ 試合中選手に与えることできる飲料は水のみです。
- ・ メインカード出場の勝者には副賞がありますので関係者受付でお受け取り下さい。
- ・ 出場選手、セコンドは試合観戦する場合会場後ろのスペースでお願いします。観客席に座るのは厳禁です。
- ・ リングサイドに付くセコンドはチームで統一のユニフォーム(上のみでも可。Tシャツ、ジャージ等)を着用して下さい。私服や統一性の無い衣類でセコンドに付くのは厳禁です。またサンダル履きも厳禁とさせていただきます。
- ・ 駐車場のご用意はありません近隣の有料駐車場をご利用下さい。また路上駐車、違法駐車は絶対におやめ下さい。



～試合ルールについて～ (ルールブックより抜粋)

※出場選手は全てのルールを把握した状態で試合に臨んで下さい。

パンクラス HP→menu→公式ルール→2019年改訂版

<https://www.pancrase.co.jp/data/rules/20190630.pdf>

第5条 任意で着用できる競技用具

① バンデージおよびテーピング

- i) 競技者は、手にバンデージやテーピングを巻く場合、拳の前面部（ナックルパート）および拳骨部分にテーピングを使用してはならない。ただし、指と指の間に細く切ったテープを通すことは認められる。
- ii) バンデージやテーピングの内部に芯、紙縊り、その他の異物を巻き込んではいならない。
- iii) 拳に装着した状態で拳骨の形が確認できない厚さに巻いてはならない。
- iv) ハンドラップ以外の身体部へのテーピングは膝、足首のみ認められる。ただし審判員により競技に支障がないと認められその上からニーサポーター、アングルサポーターを着用しそれにより表に出ない範囲内とする。

※足首、膝以外の身体部へのテーピングは以下の条件で認める場合がある。

- ①恒久的な怪我を負っていて毎試合テーピングの施しが必要な箇所て契約書提出時に診断書を提出しパンクラスオフィシャルドクターが認めた場合。

- v) バンデージやテーピングはグローブの手首から出てはならない。

第19条(2) グラウンドポジション

片手と両足以外のからだの部位が床に着いたポジション（グラウンドポジションであるためには、両手の掌／手首、またはその他のからだの部位が床に着いていなければならない）。

【参考1】グラウンドポジションになる場合

- i) どちらか一方でも膝が床に着いている。
- ii) 背中や尻が床に着いている。
- iii) どちらか一方でも肘が床に着いている。
- iv) 両足と両掌が床に着いている。

【参考2】グラウンドポジションにならない場合

- i) 両足と片手が床に着いている。
- ii) 両足と両手の指先が床に着いている（両手であっても、掌／手首まで接地しなければグラウンドポジションとは見なされない）。

第20条 反則

- (10) 肘の先端を下に打ち落とす行為（肘を縦に振り下ろす打撃攻撃）
- (13) 広げた指を相手の顔や目に向ける行為
- (15) グラウンドポジションの相手の頭部への蹴り
- (16) グラウンドポジションの相手の頭部への膝打撃
- (17) グラウンドポジションの相手への踏みつけ
- (28) 相手の頭や首をキャンバスに突き刺す（いわゆるスパイクキング）